

その後

「のがわ」100号を読まれた方から、下の写真について「水道橋から砧小学校へ向かう喜多見の丁目付近では…」とのこと意見をいただきました。



写真の提供者も場所が明確ではなく、不確かな説明を掲載していました。教えていただいていたことがありました。

「のがわ」100号の寄稿していただいた渡会入子さんに、編集委員会にお越しいただき、お話を伺いました。



第一声から張りのある声。満州からの引き上げの話、子どもの頃は東宝撮影所やお寺が遊び場だったという思い出や遠足の話など、次々にユーモアを交えて語り、その記憶の鮮明さに驚かされました。また、紙面を読んだ多くの教え子から手紙や電話が相次ぎ、何十年ぶりの再会や新たな交流が始まったことを嬉しそうに話してくださり、思わぬ反響に、編集委員が皆、100号の制作に携われて良かったと思えた瞬間でした。まだまだ学び続けたいという探求心にも脱帽！渡会先生、いつもお元気で。

人事異動

町会・自治会

- 喜多見中部町会会長 (旧) 早川 みつる (新) 城田 隆博
都営喜多見2丁目団地自治会会長 (旧) 菊地 朗 (新) 古結 信良

まちづくりセンター職員

- まちづくり・防災担当係長 (転出) 香取 真理子
職員 (転入) 奥田 奈波
職員 (転入) 會沢 千尋
非常勤 (転出) 吉野 典子
非常勤 (転入) 藪田 理枝子



Table with 4 columns: 主催, 行事, 日時, 場所. Lists various community events like 'おうちでラジオ体操' and '夏まつり'.

※新型コロナウイルス感染症の影響等により、内容が変更になる場合があります。

編集後記

「のがわ」100号は、カラー版という点もあり、皆様から「懐かし」「今とは全然違う」など、多くの感想をお寄せいただきました。渡会先生にも、かつての教え子たちからの連絡があり、何十年ぶりで新たな交流が深まっているそうです。

喜多見まちづくりセンターに展示した写真も、ご覧いただけたでしょうか。今号からは、「この地域にある古道を」ご紹介していきます。一回目は「いかだ道」。毎日何気なく通っているかも知れないところもあるこの道を、鎌田から狛江市との境、二の橋まで、当時の役乗りと同じルートで編集委員たちが実際に歩いてみました。昔の面影やそれを代々大切に守ってきた人々の暮らしを垣間見ることができ、歴史がグッと身近に感じられました。残念ながら道標や石碑が見当たらず。物足りなくなると、数日後夫と二人、足を延ばして狛江から調布まで役道の痕跡を追ってみました。曲がりくねった道をたどり、合流地点や標識を見つかるたびに嬉しくなり、道すがら神社やお地蔵様に参拝し、当時の役乗りや往来する人々に思いを馳せる一日となりました。

大國魂神社へ続く品川道、旧品川みちが役道となり、その先も府中を通じて青梅まで続いているのですが、今回はここまで。また続きをたどってみたいと思っております。 森谷



- 編集委員会 編集長 荒川真佐子 副編集長 鈴木 好子 森谷みどり 編集委員 奥田多佳子 田村 弘美 石倉 靖久 石井 ゆか 佐藤 壽夫 尾川 史子 高階 有香 安澤 秀昇

いかだ道を歩いてみた!

古道シリーズ① あの道この道



喜多見管内を、鎌田から宇奈根、喜多見へと貫いている古道があります。それが「いかだ道」です。役乗りたちの帰りが「いかだ道」と呼ばれ、村の要所に役乗りのための宿屋や商いをする家ができ、次第に栄えていったそうです。今は多摩堤通りや世田谷通りができ、道の様子も変わってしまったところが多いのですが、幸い喜多見地区は古道の面影が残っているとのこと、管内のいかだ道を、編集委員たちで役乗りと同じように歩いてみました。



玉川3丁目 諏訪神社境内にある役道の石標

昔の喜多見の街道と屋号



筏流しと筏道

江戸時代、町が発展するに当たって大量の木材が必要になり、奥多摩の森林から伐採された木材は、筏に組まれて多摩川を下り、江戸の町まで運ばれたといわれています。



それを筏流しといい、筏師たちが多摩川の羽村の取水堰を通り、3日から1週間かけて大郷にむかい、仕事を終え64km程の道のりを1泊2日で帰路に就いた道がいかだ道だと言われています。今は狛江や世田谷の一部にこの名が残っています。

筏流しは、鉄道や道路が整備されはじめた大正時代まで続いたそうです。

上記は、江戸末期～昭和初期頃の喜多見です。資料を基に北村氏により書き加えられました。

補筆:元喜多見中部町会会長 北村洋明 資料:「ふるさと世田谷を語る 祖師谷・成城・喜多見」平成10年3月発行

のがわ 第101号 2022年7月発行 発行所 編集委員会 事務局 喜多見まちづくりセンター 03-3417-3401

管内データ 2022年6月1日現在 人口:33,185人 (前号比317人増) 男:16,407人 女:16,778人 世帯数:15,882世帯 (前号比244世帯増)

1協力ありがとうございました。 春の古着・古布回収 15,640kg (5月15日集積) 次回古着・古布回収は 11月の予定です。

「いかだ道」を2コースに分かれ歩きました。

二の橋の先は世田谷通りと合流？
街道らしい大木が残っていました。



鍛冶屋
庭の奥まで案内していただき、金屑山(鍛冶で削られた金屑を捨てた山)の上に安置されたお稲荷様の社に参拝しました。

左側に足袋屋があった。



●座頭ころがし

一方、環八方面から喜多見に抜けるルートもありました。現大蔵運動公園の東側野球場に沿って緑濃く急峻な坂道。この道は「座頭ころがし」とも呼ばれ、筏師たちが利用した別ルートで、仙川にかかる清水橋を越え大蔵六丁目で多摩堤通りルートに繋がるようです。

大蔵氷川神社

庚申塔が祀られている。



写真はどこの道かわかるかな？

こんなところに
なんの道標？



町会でお世話になっております

鎌田天神社を寄り道。



①鎌田～宇奈根～知行院コース

鎌田駐在所前を出発！

調べによると、こちらのルートもあったようです。

ゴール！



サミツリソファム
脇に社を発見。

中道との分岐にある**念仏車**
右側にだんごやがあった。



念仏車の隣、**庚申塔**と地蔵像が安置されており、いつも所有者の手によって清められ、花が供えられています。

知行院

いかだ道と登戸道(青山道)の交差するこの辺りは店が立ち並び、いつの頃から、一部地元の方は「喜多見銀座」と呼んでいたとか、いないとか？



②下宿～知行院～喜多見銀座～念仏車～二の橋コース



下宿を出発！

宇奈根を通り知行院へ
二つのコースが合流します。

永安寺手前を左折。



野川に架かる**町田橋**を渡る。



スタート！

●念仏車とは

石柱をくり貫いた中に「南無阿弥陀佛」と刻まれた木製の車輪があり、念仏を唱えながら廻すもので、一回廻すごとにお経を一巻唱えたと同じ功德があるとされています。銘文によると、文政4年に喜多見郷の「女念仏講中」によって建てられたとされています。(世田谷区教育委員会の説明板より)
今は文字がうっすら読める程度ですが、所有者のお話では、以前慶元寺で文字を書いていただき、それを彫って付け換えたそうです。



取材も終えて
この筏道取材散歩で私が一番印象深く感銘を受けたのは、筏道の岩戸境近くで中道と交差した銭湯丸正湯のそばにひっそりたたずむ念仏車と庚申塚である。私は今まで幾度となくその前を通りながら、全く気にしなかった鈍感さに恥じるばかりである。仕事を終えた筏師たちが、私の想像だが水棹(みさお)を担いで、この筏道を粋なそりの半被姿で、意気ようよくと歩いていたのではなからうか。約二時間ちよっとの探索ではあったが、それにしては積年の重さをじっくり味わった一日であった。

石倉清久

～5月、地域の賑わいが3年ぶりに戻ってきた～ 宇奈根の渡し & 次大夫堀公園田植え



5月8日(日)晴れのちくもり

川風が気持ちよく吹く多摩川と河川敷にて、喜多見児童館中心に「宇奈根の渡し」が実施されました。人数制限がおこなわれ河川敷での模擬店等も開かれませんが、久方ぶりの外でのイベントに気持ちが浮き立ちました。来年は10周年になるとのこと、賑やかに開催されるよう祈ります。



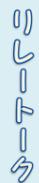
5月25日(水)晴れ

始めはおそろおそろ田んぼの中へ入っていた小さな子どもたちが、最初にもらった苗を全て植え終える頃には、苗のおかわりをもらうくらい田植えを楽しんでいました。また東京で田植えの体験を再開できるようになったことは喜ばしく思います。



各団体に分散来場など、密集を避ける対策をとりながらの開催。一般も約40人ほどの参加がありました。

町会・自治会



鎌田協和会

内山 和之 会長



鎌田協和会は、喜多見ブロックの南に位置し野川と仙川が流れる二つの川に面した、喜多見地区の中でも比較的小さな面積の町会です。居住する人口も他の町会と比べると少なく、小さな町ですが、町内には、砧南小学校、砧南中学校が有り、又 図書館、児童館を含む鎌田区民センターや堂ヶ谷公園、そして小さいながら鎌田天神社を構え皆の心の支えと成って居り、年間の色々な行事もこなして行っております。喜多見地区や砧地区の町会自治会共連携を取り、環境的にもとても住みやすい街です。コンパクトな街なので町会に以前から住む方々は、皆顔見知りと言った感じで日々生活をしていきます。(それが、防火、防災面に反映されていると思います)

その反面 近年では新しい住宅やマンションが次々と建ち、若い方々が入居され、街も少しずつ様変わりし、若返りの兆しが見えてきています。新しく町会に引越して来られた方々も徐々に町会活動に賛同して頂いていますが、これから街ぐるみ一つの輪になる様、一人でも多くの方々に町会活動に参加頂き、皆さんが楽しく住みやすく、そして鎌田協和会が活気付く街に成る様に頑張って活動していきたいと思っております。